

大腸内視鏡検査を受けられる方の説明と同意書

【検査目的】

下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）は大腸にできる病気（ポリープ・がん・炎症など）を調べ、治療するために行います。

【検査まで】

- ① 検査前日は繊維質の少ない物を食べてください（便秘の方は2-3日前から）。検査前夜9時以降、検査が終わるまでなにも食べないで下さい。水やお茶、スポーツドリンクなどの水分補給は大丈夫です。検査前夜9時に下剤（ピコスルファート）を服用してください。下剤によって腹痛を生じる可能性があります。
- ② 検査当日朝の内服薬は6時頃に内服して下さい。当日朝の糖尿病薬やインスリン注射は中止して下さい。血をサラサラにする薬（抗血栓薬）を内服されている場合は、前もって中止する場合がありますのでお知らせください。※独断で抗血栓薬の内服はやめしないで下さい。
- ③ 検査当日の朝から当院もしくは御自宅で腸管洗浄液（モビプレップ）を1-2リットル飲んでいただき、腸の中がきれいになれば検査可能です。なお、通常の処置で腸の中がきれいになりきれない場合には、浣腸を追加する場合があります。

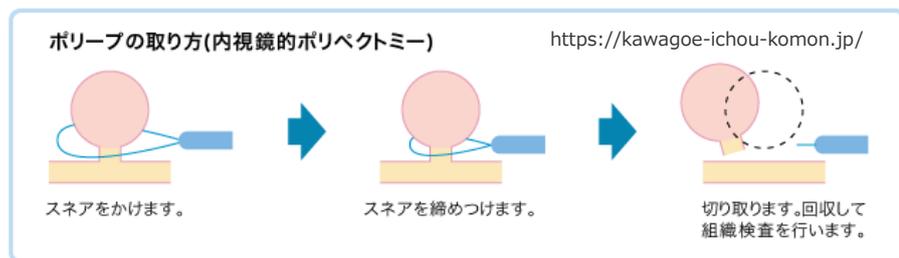
【検査方法】

- ① 検査は20～30分くらいで終わりますが、検査内容によっては時間がかかることがあります。まれに、腸管の走行が難しい方や腹部の手術で大腸の癒着がある方では検査を途中で終了する場合があります。
- ② 内視鏡（直径約12mm）を肛門から挿入し、大腸の一番奥（盲腸～一部小腸の末端）まで挿入したのちに、内視鏡を抜きながら消化管の中に空気を入れて膨らませながら観察します。鎮静剤・鎮痛剤を希望される方には検査が始まる前に点滴ルートを確認し、適宜鎮静剤・鎮痛剤を投与します。

【治療（大腸ポリープ切除）】

- ① 大腸癌のほとんどがポリープから始まるのが分かっており、ポリープの形状が大きくなるにつれて癌化の傾向も強くなっていきます。ポリープの大きさ・形状を観察し、切除必要なものを切り取って良性か悪性か調べます（病理組織診断）。
- ② 内視鏡検査にて5～7mm程度のポリープ（腺腫疑い）が見つかった場合、入院をせずその場でポリープ切除ができます。一回の検査で3～4個までは切除しますが、内視鏡担当医の判断であまりに個数が多い方やポリープの大きさが1cmを超える場合には治療後の出血の危険性を考慮して数回に分けての治療もしくは入院して治療を勧めることがあります。
- ③ 方法としては、内視鏡カメラよりスネア鉗子（金属のワッカ）にて切除します。ポリープを切除するので、一時的に出血はしますが自然に止血されます。出血が持続する場合は、クリップで切除した傷口をふさいで止血いたします。

※治療を行った際の会計は検査費用から治療費用に変更となります。



大腸カメラ観察のみ	保険診療 3割負担で 7000 円前後
観察 + 病理組織検査	保険診療 3割負担で 10000 円前後
観察 + 内視鏡ポリープ切除 (1 か所)	保険診療 3割負担で 20000 円前後
観察 + 内視鏡ポリープ切除 (2 か所)	保険診療 3割負担で 24000 円前後
観察 + 内視鏡ポリープ切除 (3 か所)	保険診療 3割負担で 27000 円前後

【偶発症】

前処置による偶発症では腸管洗浄液の内服による腸閉塞（腸管に病変や便塊があり排泄ができない状態）、腸管穿孔（腸に穴があくこと）、嘔気・嘔吐、気分不良、冷感、アナフィラキシーショックなどがあります。検査による偶発症では出血（組織検査による出血も含む）、嘔気・嘔吐、手足の痺れ、穿孔（大腸に穴があくこと）などがあります。

また、治療中の病気（脳梗塞・心筋梗塞など）の悪化、低血糖症状、その他が生じる可能性があります。

日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計（参考：日本消化器内視鏡学会誌 2016年58巻9号 p.1466-1491）によると、前処置に対する偶発症は 0.0036%（約 3 万分の 1）、死亡率は 0.000079%（約 130 万分の 1）。大腸内視鏡検査に対する偶発症は 0.011%（約 9000 分の 1）、死亡率は 0.0004%（約 25 万分の 1）と報告されています

偶発症については起こらないように細心の注意を払っています。万が一の偶発症に対しては最善の対処を致します。万が一、偶発症が発生したときは、保険診療で外科的処置を含めた最善の処置をいたしますのでご了承をお願いします。

《大腸ポリープ切除について説明を受け上記記載事項を理解した上で切除を同意される本人が□にレ点をお願いします。》

私はポリープ切除に 同意する ・ 同意しない

【検査後】

- ① カメラ操作や空気の影響による腹部違和感、膨満感などがある場合でも時間が経てばよくなります。腹部症状が落ち着いてから消化の良いものを食べて下さい。
- ② ポリープを切除した場合、傷口から出血するなど偶発症の可能性がありますので、治療後 1 週間は血圧が上がるようなこと（長時間の入浴、激しい運動など）、腹圧がかかるようなこと（排便時のいきみなど）は避け、アルコールの摂取はなさらないで下さい。また腸管刺激性の下剤の服用や、遠方への旅行・出張を控えていただきます。
- ③ 切除した腫瘍の組織結果は通常 2 週間程度で判明します。その結果により外科手術を含めた追加治療が必要となる場合があります。追加治療が不要な場合でも原則的に 1 年後には経過観察のため内視鏡検査を受けるようにして下さい。

~~~~~

以上の通り、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）の説明を行いました。

\_\_\_\_\_ 年 月 日 説明医師

私は下部内視鏡検査（大腸カメラ）について説明を受け上記記載事項を理解しました。従って下部内視鏡検査を受けることに同意しました。

- 1) 検査実施に関連して緊急の措置を行う必要が生じた場合、医師が必要と認めた処置を行うこと。
  - 2) 医師が検査中必要と判断した、色素液使用、病理組織検査などを行うこと。
- 上記の事、予め同意します。

\_\_\_\_\_ 年 月 日 患者署名又は代理人 続柄 \_\_\_\_\_

この用紙は、検査当日受付に提出してください。